

いき過ぎた部分最適化社会の罪、前編

vol.21『「民主主義」と「学びあい」』で述べました。「現在の政治は」ひとつひとつは良い政策のはずなのに、全体で見ると、何故かあまり、幸せを享受できない、モヤモヤした感覚を受ける印象」この件について、vol.21とはまた違った切り口でお話させていただきます。市議会議員に当選させていただいてから3年目に突入した現在、次のような仮説を持つようになりました。「私たちの社会(例えば、原発・環境・社会システム全般・場合によっては政策も)が部分最適化されるようなシステムになっている。」部分最適になる原因の一つは、研究者や専門家は制度論が好きであり、何かあると「こんな制度を作ろう!」「制度を作る事によって問題を解決しよう!」と発想が全て制度ありきになっているためだと感じます。そもそも制度とは何でしょうか。さまざまな規制や制限などを、ある意味強制的に行う。枠組みを社会に半ば規律的な強制力を持った形ではめこむような解決方法です。こういう制度や規制に適応した環境対策や社会システムを企業やNPO・NGOが適応したものを一斉に作る。作ったものが採用してもらえる。それにより社会にバイアス(※偏り)がかかる。そして、受け身の対策や技術をそれぞれ個別の枠組みで作るから、社会がどんどん部分最適化していきます。制度や規制は固定した枠組みをはめこむことであり、ゾーニング(※区分)していろいろな分野を細分化して運用するから、社会をバラバラにして縦割り化しているだけです。これが原因で、前述のvol.21『「民主主義」と「学びあい」』でも少しお話ししましたが、社会全体を結びつけるような社会システムの構築が困難になっていきます。ではどうすれば良いか。…紙面の都合もありますので、次回、改めて述べさせていただきます。試行錯誤の毎日です。今回、賛否両論ある難しいテーマである事は重々承知しているのですが、やはり言いたい事はひとつです。みなさんで「今後も住み続けてみたい市川市」を思い描き、話し合ってみて下さい。個々人の想いが集まっていけば、良い社会、街が形成されていくと信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ!

平成25年11月27日

増田好秀